

【八則】

このような人物はいけないという八つの警告

一、言う事と実際に行う事がいい加減で父や母を危険な目に遭わせ、周囲の出来事に關心を持たず、身内に不幸があっても悲しみの気持ちを表さず、怠けてぶらぶらしている者。

二、思いやりが無く、家の中の者や親類縁者の人達と仲良くできない者。

三、兄弟仲良くすることができず、生徒として先生の言うことに従わず、年上の人を見下したり、幼い子供をかわいがらない者。

四、周囲の人達からまったく信用されず、その上、他人から何か指図された時に、表向きはその人の言うことをきいているふりをして、陰に回ると全然異って不平を漏らしたり、あるいは、男女間のみだらな行為をし、近所の人や友達から嫌われている者。

五、怠け者で、むごい事を平気でする人間であり、親類縁者や友達がどのように困っているようにも、救ってあげようとしなないし、お金や品物を差し出そうとしなない者。

六、やたらと根も葉も無いことを言いふらし、回りの人を困らせたり、また理屈に合わないことを強引に押し通したり自分の間違っただけの行為をうまくごまかそうとする者。

七、人格、徳行の優れた人の説かれた内容を信じないで、自分勝手に悪い仲間をつくり、常に、社会の秩序や決まりを批判し、あるいは他人を悪く言い、世間で言いふらされている楽な道信じ、自分の判断だけでごまかしを言って、社会の秩序を破ろうとする者。

八、文学も武芸もお互いに相通するものがあるはずである。どちらか一方に偏ることはいけないものである。自分で好きなことだけを選んで、嫌いなことはやらず、それでいて、他人の能力を羨んだり、他人のすることにいちいち口出しをする者。

(注) 原本はもっと難しい言葉ですが、日新館内の展示では、わかりやすく書いてあるようです。

以上の八つの過ちのうち、たとえ一つであっても身につけていなければ、どんなに頭が良くても、才能があったとしても、人間としては失格です。このことを常に刻んで、慎んで行動しましょう。

\*\*\*\*\*

どんなに頭が良くても才能があっても、「徳」のない、人間として失格と思われる人間は登用しないという実に会津らしい「ならぬことはならぬ」の精神です。